

令和8年度

山城中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○「ことばの力」を土台とした全教科横断的な基礎学力の強化 ～読み取り、考え、説明する力の育成～
○日常の学びを「使える力」に変えるための反復と活用の工夫 ～学習時間の成果を定着に結びつける「仕組みと見える化」～

校長

大谷 一幸

学力向上推進員

赤松奈美

【各校の取組状況の把握について】

重点目標に応じた視点による校内研究授業や相互参観授業、職員会議等での報告を通じ把握する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○素直で、落ち着きのある授業態度で日々の授業に取り組んでいる。毎日の課題にも真面目な取組が見られる。 ●競争がないため、向上心が弱い。計算などの基礎・基本の定着が不十分な生徒がいる。 ●問題の形式が理解できず、十分に回答できていない様子が見られる。	・用語や文の意味を正確に理解し、自分の言葉で説明できる。 ・教科書や資料から必要な情報を読み取り、自分の考えを整理して発信できる。 ・問題文の意図や問いの形式に応じて答え方を工夫することができる。	・各教科で重要語句を「言い換え・説明・使う」活動に組み込む。 ・「言葉にする」場面を意図的に設定する。 ・テストや課題の誤答を自主学習などで解き直しをする。 ・家庭学習の記録を効果的に行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペアワークやグループワークに主体的に取り組む、意見をまとめることができる。 ○友達の見解をふまえて考えを修正できる。 ●自分の考えを、根拠を示しながら筋道立てて論理的に説明することが苦手な生徒が多い。 ●言葉が稚拙で、自分の意見を表現することが難しい生徒もいる。	・問題や資料の内容を理解し、目的に応じて情報を整理・比較できる。 ・自分の考えを論理的に組み立て、相手に伝わる形で表現できる。 ・習得した知識を活用して、未知の課題や実生活の場面に応用できる。 ・結果や考えを比較・検討しながら、自分の意見を表現・修正できる。	・火曜日の朝読書で、校内一斉で「あわっこタイムズ」を読む時間を確保し、関心を持った記事の感想を書かせる等の活動を行う。 ・各教科で「説明する場面」を設定する。 ・「自分の考えを持つ」「比べて選ぶ」「言葉で伝える」を日常的に意識させる。 ・「どうしてそう考えたの？」という問い返しを日常化する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○集中して授業に取り組むことができ、積極的に発表したり、主体的に話し合ったりすることができる。 ●家庭でゲームやスマホをする時間が長く、家庭学習の習慣が身につけていない生徒や、家庭学習が十分確保できていない生徒がいる。	・わからないことを放置せず、自分から質問したり調べたりできる。 ・自分の考えを持つことに価値を感じ、説明や発表に積極的に取り組める。 ・苦手な分野にもあきらめず取り組み、自分なりの工夫を考えられる。 ・自分の成長や達成を実感し、学びへの意欲を持ち続けられる。	・一人一台端末を効果的に活用する。 ・発表や話し合いの場面では、努力や工夫を承認するフィードバックを意識して行う。 ・成長を可視化する仕組みを用意する。			